

国土交通省に寄せられた意見について
(第2回検討委員会(8月5日)から10月14日まで)

番号	ご意見	入手方法
1	眼に障害があるため、ハイブリッド・カーは音が出なくて怖い。歩行者は車の接近に気が付かなくて怖い思いをするが、ドライバー側からも、歩行者に気づいて欲しいという声もある。昨日テレビで話題になっていたが、チャイム音など音をつけて欲しい。	メール
2	音付けには賛成だが、チャイム音には反対だ。エンジンの疑似音が良い。国際的にも提案すべきである。	電話
3	昨日、標記に係るニュースが流れました。私も16年前に失明した者ですから深刻な問題です。自動車のエンジン音／走行音は目の見えない者にとって単に安全上だけでなく歩行場の重要なめやすになっています。もし、これが何の音も発生しないなら死と隣り合わせになります。私は中途失明ですが、白杖の単独歩行に最初から才能があったらしく割と簡単に歩けるようになりました。それは街の騒音、車も含めてですが、それらがめやすになりました。だからエンジン音はその回転数等に応じた騒音が出るようにするのがベストです。つまり音の発生が今までとさほど変わらないのがベストで、何かメロディ音も検討されているようですが、これでは店のBGMと聞き間違えますね。この辺のかねあいで決まるのでしょうか。道交法上の白杖の歩行権を侵害する恐れがありますし、その行動範囲を狭めます。何せ音だけを頼りに行動しているので、もし音が殆ど出ない自動車が氾濫すれば街は静かになるでしょうけれど、私共は家を出る時は水杯と言う事になります。そのためにも自動車のエンジン音、それもスピードに連動して大きな音になるように設計されなければなりません。今年からエンジンの騒音がなくなり、代えて風鈴の音がするんだと言われてもエンジン音がDNA化している現代人にすぐ慣れ親しめるのでしょうか。死者が出てからでは遅いのでご検討願います。	郵送
4	ハイブリッドに音を付ける検討をしている中で、チャイム音もあるようだが、四方八方に音が広がるとエンジン音と違い、チャイム音だと音の方向が限られる上、どういう目的の音かが認識しにくい。音での対策は難しいのでは。代案として、2点提案したい。 1. 現在高級車種に搭載されている、人や物に検知するセンサーを、全ハイブリッド車及び電気自動車に義務づける。また、その規格を統一する。 2. 盲人歩行者の側も、厚生省から支給される補装具に、上記のセンサーから出るレーダーや超音波を感知する仕組みを取り入れて、携帯するようにする。	メール
5	自動車が歩行者をないがしろにするような違法状態の解消を忘れていることが気になる。 例えば、生活道路では、歩道となる路側帯をふさぐ駐車。歩行者の脇を猛スピードで走る。歩行者がいても横断歩道で停止しない。携帯電話を見ながらの運転も。歩行者保護の法律規定が遵守されない状況が常態化している。 加害性の高い運転者の方に法律の上では高度な注意義務が課されている。しかし、実情は甚大な被害に遭う歩行者の方が注意を強いられている。中でも視覚障害者は音を頼りに身の安全を守っているのである。 HVIに音が必要との議論は、こうした歩行者軽視の運転が生活道路で常態化していることを背景とすることにも留意して議論いただきたい。	一般紙
6	ハイブリッド車が静か過ぎて、歩行者などが気付くのが遅れて危険なため、スピーカーから警報音を出すことを国土交通省が検討中だとか。いいことだと思います。 ところで、どんな音がよいかを検討中とのことですが、結論から言うとエンジン音、もしくは排気音がよいと思います。これはすでに街中で沿線住民が長い間、聞いてきた音であり、違和感は無いと思います。 また歩行者にしても、それらの音なら無意識に車が近づいている、と認識すると思います。もし違う音なら「車とは思わなかった」という事例が出てくるでしょうし、道路沿線住民にとっては一日中「新しいタイプの音」を聞かされ不満が募ると思います。 例えば風鈴の音は、1個だけをそよぐ風の下で聞く分には心地よいものですが、風鈴売り場で数多くの風鈴が扇風機の風で鳴っている様は、心地よい状態とはほど遠いものです。	一般紙

7	<p>タクシー業界では、「地球温暖化防止に関する自主的行動計画」において、業界の2010年度のCO2排出量の削減目標を1990年度比12%以上とするとともに運行の効率化等を推進し、また、LPGを燃料とするハイブリッド車等タクシー専用車の開発促進をメーカーに要請しております。</p> <p>一方、環境適応車であるタクシー専用車が開発されていない現状において、ハイブリッド乗用車を導入するタクシー事業者も増加しており、こうした事業者からは、乗務する運転者の大半が、日々歩道や沿道の歩行者の飛び出し等による危険な体験をしているとの情報が寄せられております。</p> <p>このため、今後導入増が予想される電気自動車含め、ハイブリッド車等の静音性対策について検討されている貴委員会の審議に対し、タクシー業界としても深い関心を寄せております。</p> <p>つきましては、下記の事項について意見を提出いたしますので、委員会においてご配慮頂きたいお願い申し上げます。</p> <p>記</p> <p>公共交通機関としての利用者利便、安全対策を図る上で、タクシー専用音の設定が可能となるよう、対策音はガイドライン方式とし、選択肢を設けられたい。 (理由)</p> <p>タクシーを利用される視覚に障害のある方にとって身近にタクシー車両の走行を認識していただくことができる。</p> <p>タクシーは、利用者の要請、指示により運転者が知悉していない生活道路を走行することも多く、危険回避が特段に必要である。</p>	社団法人全国乗用自動車連合会
8	<p>1. 視覚障害者が、ハイブリッド車及び電気自動車の接近を認識することができるようにするために、以下の対策を講じてください。</p> <p>①すべての車種に音を付けてください。</p> <p>②走行音だけでなく、動き出そうとしていることがわかるように音を付けてください。</p> <p>③上記の音は、運転手が必要に応じて鳴らすものでなく、必ず鳴るようにしてください。</p> <p>④上記の音は、交通事故の防止に欠かせない設備と位置づけ、設備しなければならないものとしてください。</p> <p>2. 交通事故を回避するための音情報の役割について、たとえば聴覚障害者の交通事故の件数を調査するなどさらに踏み込んだ検討を行ってください。</p>	全日本視覚障害者協議会
9	<p>8月4日のハイブリッド車・EV車の体験会に参加しての感想です。</p> <p>①「これからテストを始めます」との声かけにもかかわらず、10キロ走行では車の通過に気がつかないことがありました。街中のもっと音の多い所では、全然気づかないのでは、と思います。</p> <p>②チャイム音はわかりやすいものの、車のスピードがつかめない感じがあります。</p> <p>③車の走行速度にあわせた擬音の変化は、車との距離が測りやすい感じでした。</p>	"
10	<p>ハイブリッドカーを運転しているタクシーの運転手さんからは、「細い路地では、歩いている人が車に気が付いてくれなくて神経をつかう。クラクションを鳴らすと怒られるし・・・」と言っておられました。</p>	"
11	<p>以前に、路線バスのある営業所(終点)で下車し、何台かのバスが行き来を繰り返していたが、とにかく早く買ったCDを聞きたいのと空腹感で、白杖で車庫の外に出ようとした瞬間、エンジンをかけずにバックしてきたバスと正面衝突しました。バーンという音と同時に額に強い衝撃があり、とばされて仰向けにたたきつけられました。</p> <p>また、この事故から10年ほどして、狭い道でのろのろ運転の車のタイヤに足を轆かれたことがありました。50台中盤になった現在、35歳頃から落ち始めた聴力のため、両耳のとも補聴器無しではいられない生活です。そんな中でまだまだ一人で外出する機会もあります。ハイブリッド車の普及で今よりも事故に遭う危険性は増してくるのは言うまでもありません。私達の声为国交省は重く受け止め早急な対応を強く望みます。</p>	"

12	<p>夜九時を少し回って帰宅する途中、角を曲がった瞬間突如はね飛ばされました。すごい音に驚いて、閉店していた店から人が飛び出してきたので、病院に行くまでの手配を手伝ってもらいました。警察によると、二人の若者が「角」前で停車中の自動車に乗ってこれから向かうべくお店について議論していたがまとまらず、けんか腰で急発進したために、通りがかった私とぶつかったのです。舌と唇をかみ切った私は話しをすることが出来ず、一週間仕事(盲学校の臨時職、授業)を休まざるを得ませんでした。</p> <p>今、「静かな殺し屋」といわれる、「ハイブリッドカー」や「電気自動車」の急速な普及が景気対策で実現しようとしている状況ですが、私はあの恐ろしい体験を想起しています。改めて「音のしない自動車」への対策を切実に求めています。</p>	"
13	<p>大きな四つ角があり、車の通りが激しいところで、車が通らないことを私なりに確認して、途中まで渡りかけた時に、バックしてきた車に跳ね飛ばされてしまいました。スピードはあまり出ていなかった様ですが、一瞬、耳がガーンとしました。運転手がすぐに病院に連れて行くと申し出てくれましたが、アルバイト先に知れるのを恐れて、そのまま仕事に行きました。しばらく一人歩きが怖くてなりません。車が通るたびにしばらくは、はっとした日が続いておりました。</p>	"
14	<p>昨日(9月8日)の新聞でハイブリッド車に音を付ける記事を見た。世田谷に住んでいるが、近所は2.7mの幅の狭い道路で電柱もあり、十字路ですれ違う車が相手に譲るよう、クラクションを鳴らしてうるさい。この上さらに音を出すのは、聞きたくない音楽を聴かされているようだ。</p> <p>また、ハイブリッド車に音を付けると言うことは、昔の大名行列みたいに、車が通るからどけ、というようなものだ。本来、専用道路以外は歩行者優先であると教本にも書いてある。</p> <p>外側に音を出すのではなく、内側に音をだすようにして、運転者の注意をうながし、さらに車が停止、もしくは減速するようにしてほしい。</p>	電話
15	<p>走行音の小さな移動体(ハイブリッド車、電気自動車等)の走行音の小さいことに起因する移動体による視覚障害者等が被害者となる人身事故等の危険性の低減を図る方策は、発音を利用する方策でなく、走行音が小さいという利点を安易に放棄しない方策を、真剣に考えて導き出すべきだと思います。方策は、2案以上を掲げ、各々の利点・欠点を比較し優劣を判断し決定すべきです。</p> <p>移動体(ハイブリッド車、電気自動車等)に指向性のあるマイクロ波を走行方向の前方に発射出来るマイクロ波発射装置を装着させると共に、発射されたマイクロ波を受信・検知出来る電波受信・検知手段と、電波受信・検知手段での受信・検知に連動して移動体の接近を音声で知らせることの出来る音声伝達手段と、同じく連動して発光できる発光手段を有した移動体接近報知装置を視覚障害者が上体部に装着することにより、音声伝達手段により、視覚障害者が走行音の小さい移動体の接近を確認・判断出来る様にして視覚障害者が移動体に対する身構えと危険回避行動を取ると共に、発光手段による発光により、移動体の運転者が前方に視覚障害者がいることを視認出来る様にして視覚障害者に配慮した運転できるようにすることにより、視覚障害者が被害者として人身事故等に遭遇する危険性の低減を図る方法・装置。</p>	郵送
16	<p>最初聞いたときから馬鹿げていると感じます。車の低速時の騒音はエンジン音ではなく「タイヤのロードノイズ」です、エンジン音を言うならば高級車だってエンジン音は聞こえないですよ、電気自動車は音をだすとか馬鹿げています。今日も30mくらい後ろから車が来たなと感じました、プリウスでした、ロードノイズだけで十分です。。</p>	メール

17	<p>昔は人の流れは、自分たちの歩みが基本であった。それが、利器として自転車がプラスされ、今はさらに自動車がプラスされた。</p> <p>近代文明の利器は必ず音を出す。この音が騒音となり、暮らしの快適性を阻害することになりかねない。メーカーとしては、常に静粛性を追求している。自動車関係も勿論例外ではなく、エンジンからタイヤに至るまで、いかに音を小さくするかに、技術力を傾注している。</p> <p>最近、ハイブリッド車や電気自動車などが時代の脚光を浴びてきた。モーターで動く車はエンジン車に比べると騒音は無いと言ってもよいほどである。これからはハイブリッド車や電気自動車に移行することになると考えられる。街から騒音が少なくなるということには異論は無い。ところが視覚障害者や高齢者は、音による情報を優越としている。7月に開かれた検討委員会では「静かすぎて」危険と言う意見が多く、なかでも車の接近に気がつかないという声が、メーカーに60件以上寄せられていたという報告があったとのことである。</p> <p>交通法規では、歩車道の区分のない道路で歩行者の横を走行する場合は、最徐行とされているが、ドライバーが殆ど守らない禁止条項の一つとなっている。自分の脇をなんの前ぶれもなく、自動車が走り抜ければ驚いてしまう。視覚障害を持つ人や高齢者はびっくりして事故になりやすいことになる。</p> <p>静粛性に逆行するようだが、なんらかの発音装置を導入させる必要がないだろうか。難しい問題かも知れないが、静かな車の登場により、人と自動車の新しい関係を見直す出発点になるかも知れない。世界をリードしている日本の自動車産業界である。歩行者、ドライバーが苦にならない音色、音量、しかもそれが世界の共通音になる。是非、早急に検討に入り、実施が一日も早いことを願いたいものである。</p>	「国政モニター」
----	---	----------